３６００７　真駒内中学校

（様式２）

令和５年度　自己評価書及び学校関係者評価書

令和6年（2024年）３月１日
札幌市立真駒内中学校

１　本年度の重点目標

１．指導と評価の一体化と「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に向けて
（１）生徒の主体性を育む授業づくり～「課題探究的な学習」充実と評価観の共有
（２）ＩＣＴ機器の有効活用～１人１台端末の活用の充実とＩＣＴ有効活用
２．多様性を認め生徒個々に応じた心の育みに向けて
（１）教育相談活動の充実～子ども理解と情報の共有・いじめ防止・組織的対応
（２）相手意識に基づく生徒指導・傾聴～「困り感の共有」と「寄り添いと併走」
３．健やかな体の育みに向けて
（１）基本的生活習慣の確立～家庭との連携による実態把握と生活習慣づくり
（２）体育に関する指導の充実と日常における体力向上～運動機会の提供と充実
４．信頼される学校づくりに向けて
（１）家庭、地域との連携と協働～それぞれの思いに寄り添った共につくる学校
（２）服務規律の遵守～信頼される教職員へ
５．小中一貫した教育に向けて
（１）パートナー校（桜山小・駒岡小）との連携強化・研修の充実
（２）児童・生徒及び教職員間の定期的な交流機会の設定
（３）令和８年度の義務教育学校化に向けた基盤づくり

２　本年度の経営方針

(1) 人間尊重の教育を推進し、子ども一人一人が「自分が大切にされている」と実感できる学校づくりを推進する。
(2) 調和のとれた教育課程を編成し、全教職員の相互理解と協働によって推進する。
(3) 生徒の多様性を大切にしながら、人間性や社会性を育む指導の充実を図る。
(4) 学級を基盤として、学年や生徒会の諸活動を「生徒を主体とした活動」として再構築し、協働的な活動を行うことで自己有用感や所属意識を高める。
(5) 小中一貫した教育を推進するとともに教職員の共通理解に立った協働体制を確立し、創意工夫あふれる小中で連携した教育活動を実践する。
(6) 保護者や地域社会との連携を図り、信頼に応える開かれた学校づくりに努める。

３　自己評価結果に対する学校関係者評価

分野		評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善の方策	改善策の適切さ	自己評価の適切さ
重点目標	②	学校は「学校ホームページ」や「保護者メール」、「学校だより」、連絡文書等を通じて学校の情報を発信し、学校の様子を子どもたちや保護者、地域に伝えようと努めている。	B	「学校ホームページ」「学校だより」の充実に努める。一人一台端末の有効活用を行い、連絡文書や「すぐーる」を通じた速やかな情報発信に、引き続き取り組む。	A	A
	③	学校は校区内の小学校との連携・交流や研修の機会を多くする等、地域に開かれた学校づくりに努めている。	A	児童・生徒の交流機会、教職員の情報交流・研修会等の機会を増やし、小中一貫した教育、義務教育学校に向けた取組の充実に努める。今後、ＣＳに向けて地域との連携も進めていく。	A	A
	④	学校は「学年ＰＴＡ」「学校公開日」や「学校祭」「陸上競技大会」「合唱発表会」等の行事を通して、教育活動の発信や交流に取り組んでいる。	A	年間の教育課程を整理しながら、適宜保護者や地域の方々に教育活動の発信や交流の場を設定していく。また、今後も安心・安全を心がけ、保護者や地域との交流機会を図っていく。	A	A
	⑥	学校は授業中、課題(問題)に対して、ノートやワークシートに自分の意見やまとめを書いたり(体育科は『自己評価カード』)、ペアやグループで活動を行うなど、生徒の学力向上に向けた取組をしている。	B	各教科及び総合等において、課題探究的な学習に取り組むとともに、日常の授業の中で「見通す」、「振り返る」学習の充実を図り、生徒の主体性を育む。ＩＣＴ有効活用のための教職員の研修を充実させ、生徒の学力向上に向けた工夫に取り組む。	A	A
	⑩	学校は子どもたちや保護者と向き合い、教育相談や期末懇談、家庭への電話連絡を行う等、生徒の理解に努め、指導を行っている。	A	定期的な教育相談のより一層の充実とともに、日常的な生徒との交流を図る。保護者との連携を密にし、一人一人の子どもに寄り添った生徒理解を図り、信頼関係の構築に努める。	A	A
学校関係者評価委員による意見		生徒、保護者のアンケート結果を踏まえ、適切に評価されている。また、達成状況についても、学校側として全力で取り組む姿勢が改善策から見受けられる。改善策に取り組む一方、情報の発信時の個人情報の扱いや、生徒の実態に対応した授業形態など、更なる工夫も必要と考える。				

分野		評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善の方策	改善策の適切さ	自己評価の適切さ
学習指導・確かな学力	⑤	学校は「日々の授業」や「長期休校中の学習課題の支援」「放課後学習サポート」など、生徒一人一人に対応した学習指導をしている。（複数の教員による教科指導やＡＬＴ[外国語指導助手]、補充的なプリント配布など）	B	ＩＣＴ機器の有効活用や個に応じた教科指導の工夫に取り組み、個別最適な学びと協働的な学びの実践のために研修に努める。放課後及び長期休業を活用し、学習サポートの時間を設定する等、一人一人の学びの充実に向けた取組を進める。	A	A

学習指導・確かな学力	⑦	学校は「Chromebook」や教材(資料集)・教具等を活用する等、わかりやすい授業をしている。	B	ICT機器を授業で積極的に活用するための研修の機会を設け、より効果的な活用を目指し、教員の日常的活用とスキルアップに努める。	A	A
	⑧	学校は、職業調べ、職場体験や上級学校訪問など「総合的な学習の時間」の時間のなかで、一人一人の適性や将来を考える機会を設けている。	B	３年間(９年間)を見通した、計画的なキャリア教育の充実を図る。様々な教育活動を通して、より一層子どもたちの進路や社会との関わりや生き方をみつめる時間を設定する。	A	A
	⑨	学校は、計画的な評価計画や、適切な評価資料の提示に努め、授業や課題等の評価を通して、生徒の主体性を育む授業や評価を行っている。	A	年間評価計画作成や適切な評価資料・方法についての研修を深め、「学習の到達状況が見える評価の明確化」に努める。「授業と評価の一体化」に向けた授業改善を図り、生徒の主体性を育む工夫に取り組む。	A	A
	⑰	あなたは、1日平均どのくらい家庭学習を行っていますか。 １．２時間以上　　２．１時間程度 ３．30分程度　　４．ほとんどしない	B	昨年度よりやや減ったものの、約３割の生徒の家庭学習時間が0～30分程度になっている。学ぶことに興味を持ち、学校での学びが家庭での学びにつながるよう、クロムブックの有効活用等、家庭学習に取り組むための方策、工夫に努めるとともに、家庭との連携を図る。	A	A

学校関係者評価委員による意見	日々の授業、長期休暇中の学習課題の支援など、一人ひとりに対応した学習指導や、ＩＣＴ機器の活用等に向けた取組は評価できる。キャリア教育については、「夢をもたせることの大切さ」や、身近な地域の人材活用、学習については、学習方法へのアドバイスも必要と考える。

分野		評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善の方策	改善策の適切さ	自己評価の適切さ
生徒指導・豊かな心	⑪	学校は体罰やいじめがなく、一人一人が尊重される学校生活が送れるよう努めている。	A	未然防止・早期発見・早期解決を基本とし、アンケートの実施や相談活動において情報収集に努め、様々な場面で、子ども一人一人が大切にされていると実感できるように、全教職員で協働する。	A	A
	⑫	学校は「道徳の時間」のなかで、これまでの自分の経験やそのときの気持ちや考え方を交流したり振り返ったりする活動を設けるなど、生徒の心の育成に努めている。	A	年間行事の中に計画的に各種講演会、外部講師の講話を配置し、外部の人材の有効活用を図るとともに、道徳の授業を通じ、さまざまな想いや考えを交流しながら心の育成に努める。	A	A
	⑭	学校は、「アンケート調査」や「定期的な面談(生徒・保護者・スクールカウンセラーなど)」「保健室・学習相談室(学びのサポーター)の活用」など、生徒の「心身の健康」の維持に努めている。	A	教育相談日やいじめアンケート等の有効活用及び、教師と生徒とのコミュニケーションを図る機会を工夫し、生徒一人一人の状況把握に努める。必要に応じてＳＣ等との連携をスムーズに進めていく。	A	A

学校関係者評価委員による意見	相談週間や道徳等を通して、生徒一人ひとりを尊重した取組が適切に行われていると感じる。いじめ対応や生徒との日常的な相談活動のより一層の充実を図り、学校全体でのサポート体制を今後も大切にしてほしい。

分野		評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善の方策	改善策の適切さ	自己評価の適切さ
その他／信頼される学校・健やかな体	①	学校は儀式的行事(入学式や終業式等)の簡素化をはじめ「学校行事の見直しと実施の工夫」を行う等、生徒や保護者の理解を図りながら、教育活動を進めている。	A	学校評価アンケートや年度末反省を踏まえ、教育課程の中で、儀式や諸行事の目的や位置付けを整理し、年間を見通した行事計画を図る。また、義務教育学校に向けた準備を進めていく。	A	A
	⑬	学校は日常の生徒との相談活動や保護者との懇談、長期休みの生活記録の確認等を通して、生徒の「日々の健康管理」の確認に努めている。	A	全教職員で、生徒一人一人の健康状態の把握に努めるとともに、日々の健康管理については、感染症対策も含め、引き続き、適切な指導に努める。	A	A
	⑮	学校は教科や新体力テスト、生活リズムチェックシートなどを通じ、生徒の体力を把握し、健康な体づくりを目指した教育活動に努めている。	A	「健やかな体」育成プログラムに基き、教科の取組に加え、保体委員会による昼休みの運動機会の充実や、栄養教諭、養護教諭等を活用し、生徒の実態に応じた効果的な食指導、保健指導に努める。	A	A
	⑯	学校は、部活動や運動に親しむ機会を設け、健やかな体づくりに向けて適切な指導に努めている。	A	部活動活動方針を遵守し、適切なコミュニケーションを図りながら、より効果的な充実した活動を行うことで心身の成長と体力の向上に努める。	A	A
	⑱	あなたは、1日平均どのくらいテレビをみたり、インターネットやテレビゲーム、携帯電話やスマートフォンをしたりしていますか。 １．２時間以上　　２．１時間程度 ３．30分程度　４．ほとんどみたり、したりしない	B	２時間以上との回答が４割程度と、昨年度より約２割減少している。今後も活用のルールを子ども目線で話し合い、より有効な活用方法や家庭学習との両立を生徒自身が考える機会を設け、家庭とも連携していく。	A	A

学校関係者評価委員による意見	学校の取組に対して、生徒、保護者ともに学校を信頼し、義務教育の仕上げの時期を委ねている姿勢が見受けられる。また、各項目に対する改善策も適切に考えられている。あいさつ運動は、ぜひ今後も継続し、地域に広げ、発展させていってほしいと考える。